

2016年12月期 第2四半期決算 参考資料

I	サマリー情報	P.1
	① 経営成績	P.1
	② 財政状態	P.1
II	2016年12月期 第2四半期実績	P.2
	① 四半期損益計算書	P.2
	② 製商品別売上高	P.4
	③ 四半期貸借対照表	P.5
	④ 四半期キャッシュ・フロー計算書	P.6
	⑤ 設備投資の状況	P.7
	⑥ 非資金項目	P.7
	⑦ 研究開発の状況	P.7
III	2016年12月期 業績予想	P.8
	① 損益計算書	P.8
	② 製商品別売上高	P.10
	③ 設備投資の状況	P.11
	④ 非資金項目	P.11
	⑤ 配当	P.11
	【将来に関する記述等についてのご注意】	P.11

※ 本資料は累計期間に係る情報を掲載しており、百万円未満を切捨てして表示しております。

2016年7月28日



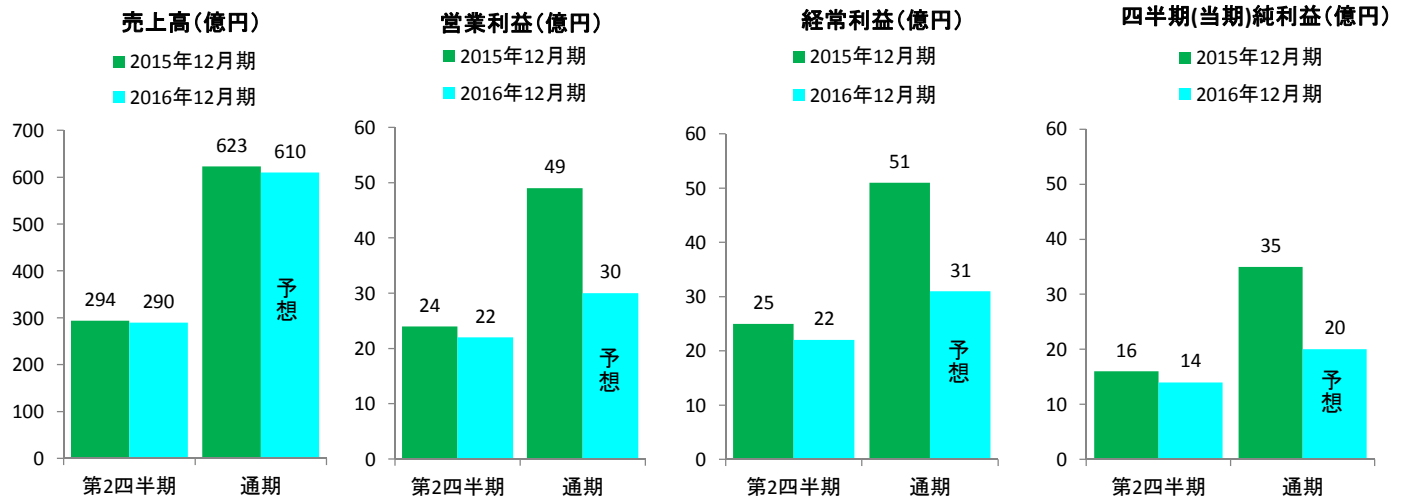
鳥居薬品株式会社

I サマリー情報

① 経営成績

※2016年12月期 業績予想については、2016年2月3日「平成27年12月期 決算短信(日本基準)(非連結)」で発表しております予想数値を修正しております。

(単位:百万円)	2015年12月期 第2四半期 A	2016年12月期 第2四半期 B	増減 B-A	増減率 (%) (B-A)/A	2015年12月期 実績	2016年12月期 修正予想 C	対予想 進捗率(%) B/C
売上高	29,434	29,013	△420	△1.4	62,378	61,000	47.6
営業利益	2,461	2,217	△244	△9.9	4,919	3,000	73.9
経常利益	2,541	2,291	△250	△9.9	5,135	3,100	73.9
四半期(当期)純利益	1,632	1,483	△149	△9.1	3,527	2,000	74.2
(参考)							
研究開発費	2,350	2,038	△312	△13.3	5,237	5,200	39.2
1株当たり四半期(当期) 純利益(EPS)	(円) 57.70	52.43	△5.27		124.65	70.67	
自己資本四半期(当期) 純利益率(ROE)	(%) 2.0	1.8	△0.2		4.3	-	
総資産経常利益率	(%) 2.7	2.3	△0.4		5.4	-	
売上高営業利益率	(%) 8.4	7.6	△0.8		7.9	-	
総資産四半期(当期) 純利益率(ROA)	(%) 1.7	1.5	△0.2		3.7	-	



② 財政状態

(単位:百万円)	2015年12月期 A	2016年12月期 第2四半期 B	増減 B-A	増減率 (%) (B-A)/A
総資産	98,868	97,676	△1,192	△1.2
純資産	82,826	83,456	629	0.8
自己資本比率	(%) 83.8	85.4	1.6	
1株当たり純資産(BPS)	(円) 2,926.81	2,949.01	22.20	

Ⅱ 2016年12月期 第2四半期実績

① 四半期損益計算書

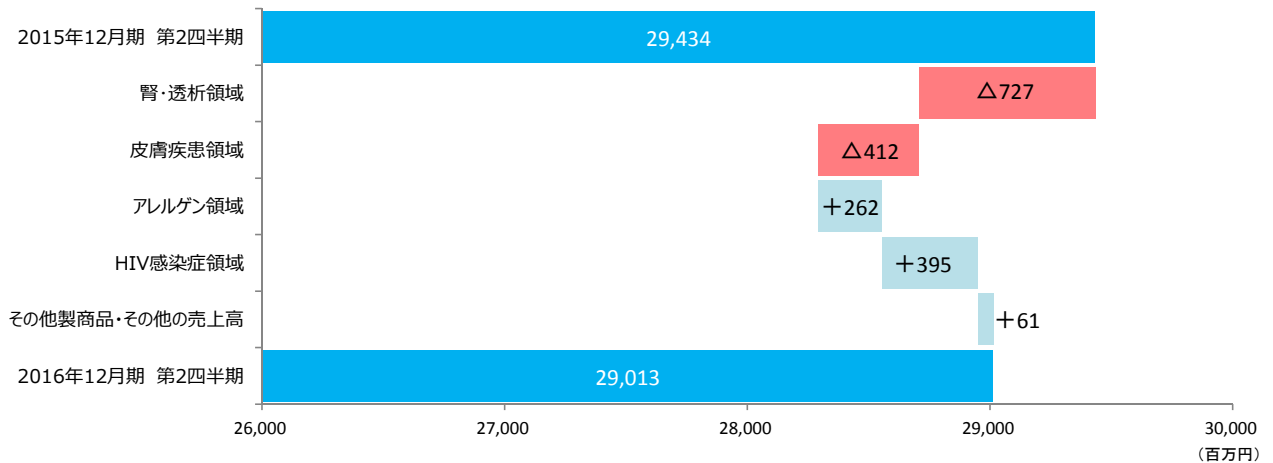
(単位:百万円)	2015年12月期	2016年12月期	増減額	増減率 (%)
	第2四半期 A	第2四半期 B		
売上高	29,434	29,013	△420	△1.4
製商品売上高	29,239	28,735	△504	△1.7
腎・透析領域	12,959	12,231	△727	△5.6
皮膚疾患領域	5,364	4,951	△412	△7.7
アレルギー領域	353	616	262	74.3
HIV感染症領域	7,678	8,074	395	5.1
その他	2,883	2,861	△21	△0.8
その他の売上高	194	277	83	43.0
売上原価	14,159	14,155	△4	△0.0
製商品売上原価	14,133	14,124	△9	△0.1
その他の原価	25	30	4	18.0
売上総利益	15,274	14,858	△416	△2.7
販売費及び一般管理費	12,812	12,640	△171	△1.3
販管費(研究開発費除く)	10,461	10,602	140	1.3
研究開発費	2,350	2,038	△312	△13.3
営業利益	2,461	2,217	△244	△9.9
営業外収益	82	74	△7	—
営業外費用	2	1	△1	—
経常利益	2,541	2,291	△250	△9.9
特別損失	41	15	△25	—
税引前四半期純利益	2,500	2,275	△224	△9.0
法人税等	867	792	△75	—
四半期純利益	1,632	1,483	△149	△9.1

(参考) 売上高に対する比率

(単位:%)	2015年12月期	2016年12月期	増減
	第2四半期 A	第2四半期 B	
売上原価	48.1	48.8	0.7
販売費及び一般管理費	43.5	43.6	0.1
研究開発費	8.0	7.0	△1.0
営業利益	8.4	7.6	△0.8
経常利益	8.6	7.9	△0.7
四半期純利益	5.5	5.1	△0.4

【対前年同期増減要因】

売上高（29,013百万円 対前年同期 △420百万円）

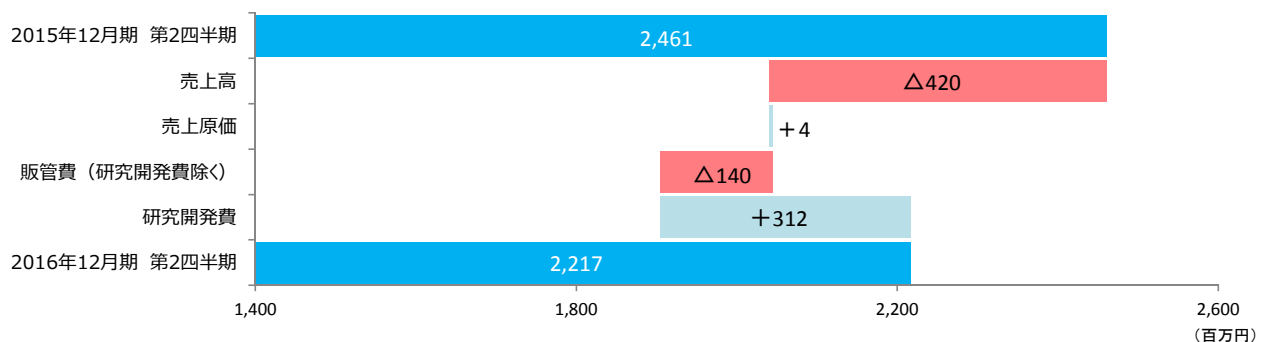


主な増減要因

腎・透析領域	：レミッチカプセル	△723百万円	、	注射用フサン	△237百万円
	：リオナ錠	+413百万円			
皮膚疾患領域	：アンテベート	△203百万円			
アレルギー領域	：シダトレン スギ花粉舌下液	+229百万円			
HIV感染症領域	：スタビルド配合錠	+320百万円			

※詳細はP.4「② 製商品別売上高」を参照

営業利益（2,217百万円 対前年同期 △244百万円）



主な増減要因

販管費（研究開発費除く）	：パソコン更新による増加
研究開発費	：臨床試験費用（TO-206）の減少

経常利益（2,291百万円 対前年同期 △250百万円）

特記事項：特になし

四半期純利益（1,483百万円 対前年同期 △149百万円）

特記事項：特になし

② 製商品別売上高

(単位:百万円)	2015年12月期 第2四半期 A	2016年12月期 第2四半期 B	増減額 B-A	増減率 (%) (B-A)/A
製商品売上高	29,239	28,735	△504	△1.7
レミッチカプセル	7,419	6,696	△723	△9.7
経口そう痒症改善剤 [腎・透析領域]				
ツルバダ配合錠	6,131	6,227	95	1.6
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]				
アンテベート ※	3,369	3,166	△203	△6.0
外用副腎皮質ホルモン剤 [皮膚疾患領域]				
リオナ錠	2,221	2,635	413	18.6
高リン血症治療剤 [腎・透析領域]				
スタビルド配合錠	1,411	1,731	320	22.7
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]				
注射用フサン ※	1,438	1,200	△237	△16.5
蛋白分解酵素阻害剤 [腎・透析領域]				
ビオスリー	1,078	1,162	84	7.8
活性生菌製剤(整腸剤) [その他]				
ケイキサレート ※	1,087	1,072	△14	△1.4
高カリウム血症改善剤 [腎・透析領域]				
ロコイド ※	723	710	△13	△1.8
外用副腎皮質ホルモン剤 [皮膚疾患領域]				
ユリノーム錠 ※	791	626	△165	△20.9
尿酸排泄薬(高尿酸血症治療剤) [腎・透析領域]				
ゼフナート	615	583	△31	△5.2
抗真菌薬 [皮膚疾患領域]				
マグセント	502	525	22	4.6
切迫早産における子宮収縮抑制剤 子癇の発症抑制・治療剤 [その他]				
シダトレン スギ花粉舌下液 ※	152	382	229	150.6
スギ花粉症の減感作療法(アレルギー免疫療法)薬 [アレルギー領域]				
その他製商品	2,295	2,014	△281	△12.3

※ 自社品

(参考) 自社品売上高及び自社品比率

(単位:百万円)	2015年12月期 第2四半期 A	2016年12月期 第2四半期 B	増減 B-A	増減率 (%) (B-A)/A
自社品売上高	8,483	8,032	△450	△5.3
自社品比率 (%)	29.0	28.0	△1.0	-

③ 四半期貸借対照表

(単位:百万円)	2015年12月期	2016年12月期	増減額	増減率 (%)	構成比 (%)
	A	第2四半期 B			
流動資産	77,155	77,829	674	0.9	79.7
現金及び預金	14,361	13,403	△958		
キャッシュ・マネジメント・システム預託金	4,348	17,496	13,148		
受取手形及び売掛金	27,904	25,058	△2,845		
有価証券	18,708	7,806	△10,901		
たな卸資産	9,836	11,763	1,926		
その他	1,994	2,300	306		
固定資産	21,713	19,846	△1,867	△8.6	20.3
有形固定資産	6,182	5,908	△274		
無形固定資産	955	890	△64		
投資その他の資産	14,575	13,047	△1,528		
投資有価証券	6,800	5,017	△1,782		
長期前払費用	6,530	6,686	156		
その他	1,244	1,342	98		
資産合計	98,868	97,676	△1,192	△1.2	100.0
流動負債	14,472	12,628	△1,844	△12.7	12.9
買掛金	6,853	6,728	△125		
未払金	3,287	2,808	△479		
未払法人税等	1,915	858	△1,056		
賞与引当金	660	670	10		
その他	1,755	1,561	△194		
固定負債	1,569	1,591	22	1.4	1.7
負債合計	16,042	14,220	△1,822	△11.4	14.6
株主資本	82,127	82,931	804	1.0	84.9
評価・換算差額等	698	522	△176	△25.2	0.5
新株予約権	-	1	1	-	0.0
純資産合計	82,826	83,456	629	0.8	85.4
負債純資産合計	98,868	97,676	△1,192	△1.2	100.0

主な増減要因

(流動資産)

- 受取手形及び売掛金 : 売上高の減少による減少
- 有価証券 : 金銭信託の償還による減少
- たな卸資産 : 商品の増加

(固定資産)

- 投資有価証券 : 有価証券への振替による減少

④ 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	2015年12月期	2016年12月期	増減額
	第2四半期 A	第2四半期 B	
税引前四半期純利益	2,500	2,275	△224
減価償却費	700	671	△29
売上債権の増減額 (△は増加)	622	2,845	2,223
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△885	△1,926	△1,040
仕入債務の増減額 (△は減少)	98	△125	△223
未払金の増減額 (△は減少)	437	△467	△905
長期前払費用の増減額 (△は増加)	441	△156	△597
法人税等の支払額	△239	△1,863	△1,624
その他	△867	△248	618
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,809	1,005	△1,803
有形固定資産の取得による支出	△457	△188	268
無形固定資産の取得による支出	△210	△151	59
その他	901	600	△300
投資活動によるキャッシュ・フロー	233	260	27
財務活動によるキャッシュ・フロー	△723	△876	△152
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,319	390	△1,929
現金及び現金同等物の期首残高	31,894	36,210	4,316
現金及び現金同等物の四半期末残高	34,213	36,600	2,386

(注) 現金及び現金同等物は、現金及び預金（預入期間が3ヶ月を超える定期預金を除く）、キャッシュ・マネージメント・システム預託金、有価証券（取得日から償還日迄の期間が3ヶ月を超えるものを除く）からなっております。

主な増減要因

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

売上債権の増減額 : 当期 売上高の減少による減少
 たな卸資産の増減額 : 当期 商品の増加

⑤ 設備投資の状況

(単位:百万円)	2015年12月期	2016年12月期	増減額	増減率 (%) (B-A)/A
	第2四半期	第2四半期		
	A	B		
設備投資額	875	347	△527	△60.3
有形固定資産	704	252	△452	△64.2
無形固定資産	171	95	△75	△44.2

当期の設備投資の内容

有形固定資産：主に生産能力向上を目的とする製造設備への投資
 無形固定資産：業務の効率化等を目的とするソフトウェアへの投資

⑥ 非資金項目

(単位:百万円)	2015年12月期	2016年12月期	増減額	増減率 (%) (B-A)/A
	第2四半期	第2四半期		
	A	B		
減価償却費	700	671	△29	△4.2
長期前払費用償却費	451	500	48	10.8

⑦ 研究開発の状況

開発番号 「製品名」	予定適応症等	剤形等	開発段階（国内）					備考
			Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認	
腎・透析領域								
JTT-751 「リオナ錠」	鉄欠乏性貧血	経口剤		Phase II				<ul style="list-style-type: none"> ・ケリックス社と日本における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結 ・日本たばこ産業(株)との共同開発 ・日本たばこ産業(株)が2014年1月17日に製造販売承認取得 ・高リン血症治療剤として販売中
アレルギー領域								
TO-203 「ミティキュア ダニ舌下錠」	室内塵ダニアレルギー疾患 (アレルギー性喘息) (減感作療法 (アレルギー免疫療法) 薬)	舌下錠		Phase II / III 終了※				<ul style="list-style-type: none"> ・ALK社と日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結 ・自社開発 ※今後の開発方針について検討中
	室内塵ダニアレルギー疾患 (小児アレルギー性鼻炎) (減感作療法 (アレルギー免疫療法) 薬)	舌下錠			Phase III			<ul style="list-style-type: none"> ・ALK社と日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結 ・自社開発
TO-206	スギ花粉症 (減感作療法 (アレルギー免疫療法) 薬)	舌下錠				申請		<ul style="list-style-type: none"> ・自社開発 ・2015年12月25日に製造販売承認申請

前回公表時（2016年4月27日）からの変更点

・JTT-751「リオナ錠」の鉄欠乏性貧血を新適応症とする国内Phase IIの開始

Ⅲ 2016年12月期 業績予想

※2016年12月期 業績予想については、2016年2月3日「平成27年12月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）」で発表しております予想数値を修正しております。

① 損益計算書

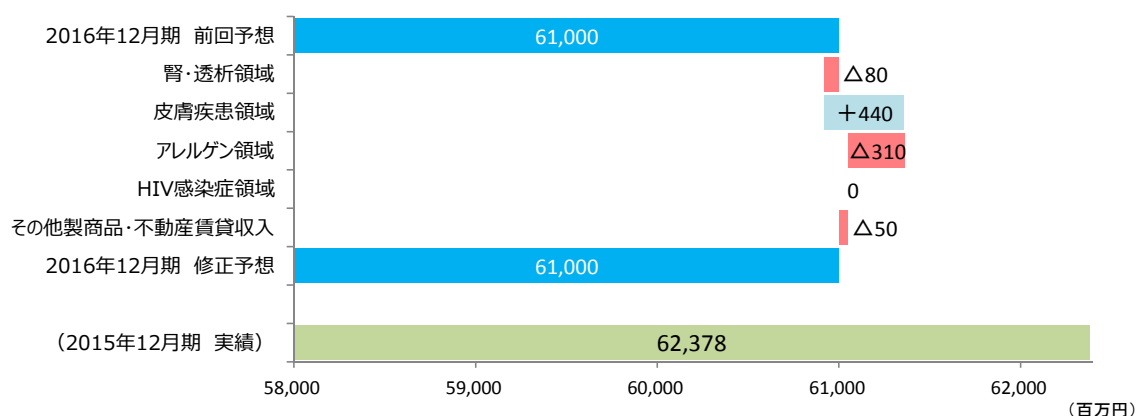
(単位:百万円)	2016年12月期	2016年12月期	修正額	2015年12月期	増減額	増減率 (%) (B-C)/C
	前回予想 A	修正予想 B		実績 C		
売上高	61,000	61,000	—	62,378	△1,378	△2.2
製商品売上高	59,770	59,900	130	61,861	△1,961	△3.2
腎・透析領域	25,710	25,630	△80	27,627	△1,997	△7.2
皮膚疾患領域	9,080	9,520	440	10,970	△1,450	△13.2
アレルギー領域	1,870	1,560	△310	905	654	72.3
HIV感染症領域	17,320	17,320	—	16,330	989	6.1
その他	5,790	5,870	80	6,028	△158	△2.6
その他の売上高	1,230	1,100	△130	517	582	112.7
売上原価	30,500	30,500	—	30,814	△314	△1.0
売上総利益	30,500	30,500	—	31,564	△1,064	△3.4
販売費及び一般管理費	27,200	27,500	300	26,645	854	3.2
販管費（研究開発費除く）	22,500	22,300	△200	21,408	891	4.2
研究開発費	4,700	5,200	500	5,237	△37	△0.7
営業利益	3,300	3,000	△300	4,919	△1,919	△39.0
経常利益	3,400	3,100	△300	5,135	△2,035	△39.6
当期純利益	2,300	2,000	△300	3,527	△1,527	△43.3

(参考) 売上高に対する比率

(単位:%)	2016年12月期	2016年12月期	増減	2015年12月期	増減
	前回予想 A	修正予想 B		実績 C	
売上原価	50.0	50.0	—	49.4	0.6
販売費及び一般管理費	44.6	45.1	0.5	42.7	2.4
研究開発費	7.7	8.5	0.8	8.4	0.1
営業利益	5.4	4.9	△0.5	7.9	△3.0
経常利益	5.6	5.1	△0.5	8.2	△3.1
当期純利益	3.8	3.3	△0.5	5.7	△2.4

【2016年12月期 対前回予想増減要因】

売上高（61,000百万円 対前回予想変更なし）

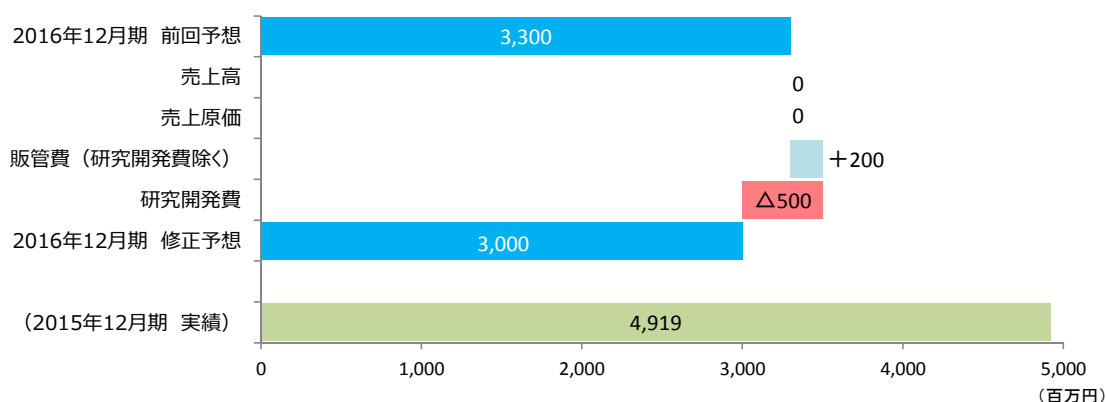


主な増減要因

腎・透析領域	: リオナ錠	△430百万円、	レミッチカプセル	+200百万円
皮膚疾患領域	: アンテベート	+230百万円		
HIV感染症領域	: ツルバダ配合錠	+300百万円、	スタビルド配合錠	△380百万円

※詳細はP.10「② 製商品別売上高」を参照

営業利益（3,000百万円 対前回予想△300百万円）



主な増減要因

販管費（研究開発費除く）	: 経費節減による効果
研究開発費	: 新規開発品にかかる費用の増加

経常利益（3,100百万円 対前回予想△300百万円）

特記事項：特になし

当期純利益（2,000百万円 対前回予想△300百万円）

特記事項：特になし

② 製商品別売上高

(単位:百万円)	2016年12月期 前回予想 A	2016年12月期 修正予想 B	修正額 B-A	2015年12月期 実績 C	増減額 B-C	増減率 (%) (B-C)/C
製商品売上高	59,770	59,900	130	61,861	△1,961	△3.2
レミッチカプセル	13,150	13,350	200	15,636	△2,286	△14.6
経口そう痒症改善剤 [腎・透析領域]						
ツルバダ配合錠	12,550	12,850	300	12,938	△88	△0.7
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]						
リオナ錠	6,720	6,290	△430	5,034	1,255	24.9
高リン血症治療剤 [腎・透析領域]						
アンテベート ※	5,960	6,190	230	6,881	△691	△10.0
外用副腎皮質ホルモン剤 [皮膚疾患領域]						
スタビルド配合錠	3,550	3,170	△380	3,133	36	1.2
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]						
注射用フサン ※	2,450	2,530	80	3,062	△532	△17.4
蛋白分解酵素阻害剤 [腎・透析領域]						
ビオスリー	2,320	2,470	150	2,272	197	8.7
活性生菌製剤(整腸剤) [その他]						
ケイキサレート ※	2,110	2,200	90	2,288	△88	△3.9
高カリウム血症改善剤 [腎・透析領域]						
ロコイド ※	1,330	1,370	40	1,417	△47	△3.3
外用副腎皮質ホルモン剤 [皮膚疾患領域]						
ユリノーム錠 ※	1,280	1,260	△20	1,604	△344	△21.5
尿酸排泄薬(高尿酸血症治療剤) [腎・透析領域]						
マグセント	1,170	1,120	△50	1,143	△23	△2.1
切迫早産における子宮収縮抑制剤 子癇の発症抑制・治療剤 [その他]						
ゼフナート	1,020	1,110	90	1,407	△297	△21.1
抗真菌薬 [皮膚疾患領域]						
シダトレン スギ花粉舌下液 ※	1,040	990	△50	511	478	93.4
スギ花粉症の減感作療法(アレルギー免疫療法)薬 [アレルギー領域]						
その他製商品	5,120	5,000	△120	4,528	471	10.4

※ 自社品

(参考) 自社品売上高及び自社品比率

(単位:百万円)	2016年12月期 前回予想 A	2016年12月期 修正予想 B	修正額(率) B-A	2015年12月期 実績 C	増減 B-C	増減率 (%) (B-C)/C
自社品売上高	16,370	16,470	100	17,567	△1,097	△6.2
自社品比率 (%)	27.4	27.5	0.1	28.4	△0.9	-

③ 設備投資の状況

(単位:百万円)	2016年12月期 前回予想 A	2016年12月期 修正予想 B	修正額 B-A	2015年12月期 実績 C	増減額 B-C	増減率 (%) (B-C)/C
設備投資額	1,160	1,101	△59	2,207	△1,106	△50.1
有形固定資産	756	746	△10	1,802	△1,056	△58.6
無形固定資産	404	355	△49	405	△50	△12.4

設備投資の内容

有形固定資産：主に生産能力向上を目的とする製造設備への投資
 無形固定資産：業務の効率化等を目的とするソフトウェアへの投資

④ 非資金項目

(単位:百万円)	2016年12月期 前回予想 A	2016年12月期 修正予想 B	修正額 B-A	2015年12月期 実績 C	増減額 B-C	増減率 (%) (B-C)/C
減価償却費	1,438	1,292	△146	1,457	△165	△11.4
長期前払費用償却費	1,089	1,024	△65	824	199	24.2

⑤ 配当

	2016年12月期 前回予想 A	2016年12月期 修正予想 B	修正額(率) B-A	2015年12月期 実績 C	増減 B-C	増減率 (%) (B-C)/C
1株当たり配当金 ※ (円)	48	48	0	48	0	0.0
配当性向 (%)	59.1	67.9	8.8	38.5	29.4	-

※ 2016年7月28日開催の取締役会において、2016年12月期の中間配当を1株当たり24円にて行う旨決議しております。

【将来に関する記述等についてのご注意】

本資料に記載しております業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確実な要素を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。したがって、実際の業績等は、様々な要素により、これらの業績見通し等とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に関わらず、常に当社が、将来の見通しを見直すとは限りません。なお、現時点において、実際の業績等に影響を与えるリスクや不確実な要素としては、以下のような事項を挙げることができます。(かかるリスクや不確実な要素はこれらの事項に限定されるものではありません。)

- ◇ 医薬品医療機器法その他の法令又は規制の変化
- ◇ 研究開発の遅延又は中止
- ◇ 薬価の決定、改定
- ◇ 副作用の発現
- ◇ 製商品の供給停止、回収
- ◇ 訴訟の提起